



result6

see. hear. achieve

PMC[®]

result6

2-way Active Reference Monitor

result6 は PMC 独自のベース・ローディング・システム ATL™, スイートスポットの拡張とステレオ・イメージの向上を実現する新開発の D-Fin を搭載したコンパクトな 2 ウェイ・アクティブ・モニター・スピーカーです。

result6 には複雑な DSP ベースのユーザー・オプションや EQ 補正機能はありません。PMC 社の高度な製品設計だけで高いレベルのリファレンス・サウンドをユーザーへ提供し、PMC サウンドの代名詞である高い解像度と正確なディテール、豊かな低音、あらゆるレベルでの一貫した音色バランス、ナチュラルな音質かつフラットな周波数レスポンス、リスニング・ポジションの自由度が飛躍的に増す広いスイートスポットを実現しています。

result6 は現代のサウンド・モニタリングに必要なものを的確に提供できる PMC 社の新たなリファレンス・モニター・スピーカーです。

高域ドライブ・ユニット

27 mm のソフトドームツイーターは強磁性流体冷却とコンパクトなネオジム駆動アセンブリを特長とし、活き活きとしながらも疲れにくい高域特性を生み出します。グリルはトレブル・ドライバーの音質に影響を与えないよう正確に設計されています。

中低域ドライブ・ユニット

カスタム・デザインの低音用ドライバーは極めて低い出力レベルにおいても 45 Hz を下限とする正確で十分に制御された低域情報をもたらすことができます——この直径 6.5 インチのベース・ドライバーと PMC 特許の ATL™ テクノロジーによって高い低域再生能力を実現しています。

箱鳴りしないキャビネット

高い剛性、防振、防磁のキャビネットは出力にカラーレーションを加えることのない、高性能ドライバーに最適なニュートラルなプラットフォームです。

ATL™ ポート

ATL™ は PMC のそれぞれのスピーカーに合わせて設計が異なります。新処方のダンピング素材を採用した ATL を使う result6 も例外ではありません。上述のように、result6 の ATL™ は低音用ドライバーと完璧に一体化されるように、PMC が開発製造した革新的なレーザー計測システムを用いて微調整されます。



デカップリング・バンド

不要振動が本体に伝わるのを防止し、サウンドに悪影響を与えることを防ぐインシュレーターの役割を果たします。

アンカー・ポイント

PMC カスタムメイドの「チルト & スイベル」ブラケットをここに固定し、スピーカーを壁に取り付けて狙った方向に正確に向けることができます。

アイソレーション・マウント

理想的なアイソレーションを得るためにアクティブ電子回路はすべてキャビネットから分離されています。

アナログ・クロスオーバー

クロスオーバーによってドライブ・ユニットはそれぞれの最適動作範囲の周波数だけが供給されるようになります。result6 のために新に設計されたシンプルでビュアなアナログ・クロスオーバーは最大限の効率とより高いパワー・ハンドリングを得るためにオクターブ毎 24 dB フィルターを採用。クロスオーバー・ポイントは 2 kHz に設定されています。

レベル・コントロール・トリム

± 10 dB の出力レベル調節が可能です。

ハイパワーなアンプ：HF 65W, LF 100W

最大限のヘッドルームとダイナミクスが得られるように、高域ドライバーに 65W、低域ドライバーに 100W の低歪で高いダンピング・ファクターの高効率なクラス D アンプが搭載されています。ドライバーを保護するリミッティング機能も搭載されています。



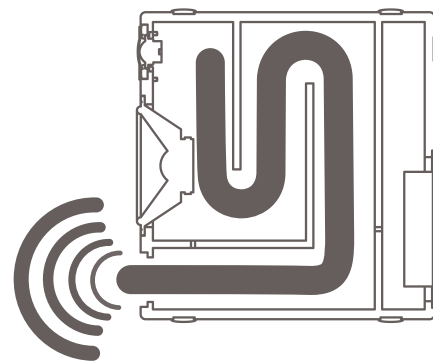
PMC の独自の技術であるベースローディングテクノロジー ATL™ (Advanced Transmission Line)。この ATL™ は PMC サウンドの核となるテクノロジーとして全ての PMC 製品に採用されています。

ベース・ドライバーの背面から放射される不要な周波数帯域を様々な素材の吸音材等で最適な音響処理を施した「長いトンネル」で吸収し、非常に低い周波数帯域のみを通すことで前面のポートからベース・ドライバーと同位相の音声を出力し、ポートをあたかも第二のベース・ドライバーのように機能させ、またミッド・ロー帯域への不要な倍音成分を低減させる効果も備えています。

これにより、早いレスポンスで歪の無い躍動的な低域と、中高域の高い分解能と解像度を実現し、ディテールの細かな鮮明なサウンドを提供します。また、音量レベルの大小にかかわらず周波数バランスを均一化することで安定したサウンド・イメージを保ち、低い音量レベルでも高いクオリティのモニタリングが可能です。

音量レベルの大小に関係なく、これほど高い解像度と音色バランスをもたらすベース・ローディング・テクノロジーは他にはありません。

「トランスミッション・ライン」方式のスピーカーの理論は 90 年以上前に発表されていました。その後多くのエンジニアたちが実現に向けて研究・開発を行ってきましたが、PMC 社だけがプロフェッショナル・モニター・スピーカーの分野で唯一製品化に成功しました。ATL™ (Advanced Transmission Line) は当初の「トランスミッション・ライン」理論を PMC によってブラッシュアップさせた PMC 社のキーテクノロジーです。



D-Fin

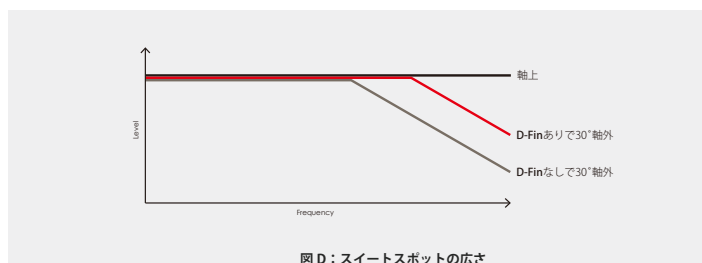
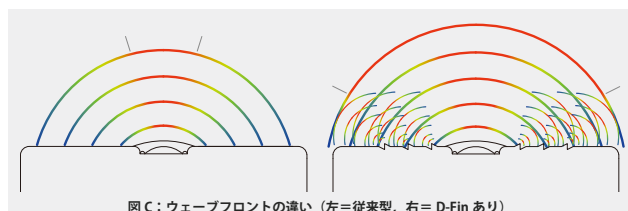
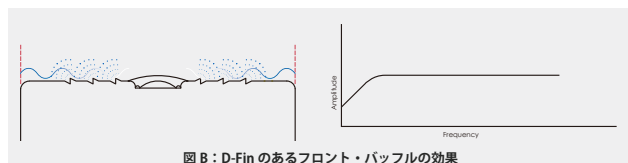
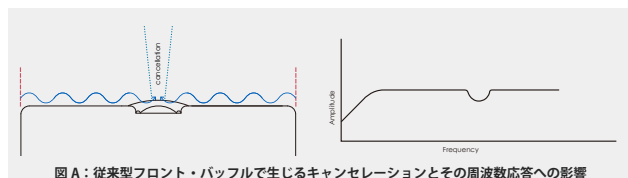


result6 に初めて搭載されたツイーター・ユニットの周辺に付けられた凹凸の羽根のような形状をした **D-Fin** はモニタリング時のスイートスポット・エリアをより広くし、エッジ部の反射による影響を低減し、よりシャープでクリアな音像定位を実現します。

標準的なコンパクト・モニターではツイーターからの音声はフロント・バッフル全体にわたって放射され、その際にツイーターからの音声はスピーカー・エンクロージャーのエッジ部分で反射され、ツイーターに戻り、キャンセレーション（位相干渉）を生じさせます（図 A）。

D-Fin はエッジ部で反射された音声ツイーターに到達する前に拡散させ、ツイーターからの全体的な音声（高域/中高域）を平坦に保ちシャープでクリアな音像を実現します（図 B）。

また、**D-Fin** はフロント・バッフルの反射を高度に制御し、幅広くより滑らかな HF ウェーブフロントを作り出し（図 C）、高域における軸上と軸外の音声レベルの差を大幅に低減し、**result6** の特長である広いスイートスポットを実現します（図 D）。





Metropolis Studios / London

SPECIFICATIONS

周波数特性	45 Hz ~ 22 kHz
最大音圧レベル	112 dB @1 m
ATL 有効長	1.5 m
クロスオーバー周波数	2 kHz
ドライブ・ユニット	LF 170 mm (6.5 インチ) HF 27 mm ソフトドーム
外形寸法	H380 × W199 × D360 mm
重量	8 kg
入力コネクター	バランス式アナログ XLR, ピン 1 = シールド, ピン 2 = ホット, ピン 3 = コールド
電源	IEC コネクター, AC 100 V
アンプ	LF 100 Wrms, HF 65 Wrms
ゲイン・トリム	-10 dB ~ +10 dB
入力インピーダンス	> 8k Ω



オプションのチルト&スワイベル・ウォール・マウント・ブラケット

予告なく変更されることがあります。



Peter Thomas, Owner

PMC[®]

THE PROFESSIONAL MONITOR COMPANY LIMITED
Founded in 1991 in England

PMC (The Professional company Limited) 社は英国にて BBC 英国放送協会のエンジニアであったピーター・トーマス氏によって新たなリファレンス・モニター・スピーカーの開発を目的として 1991 年に設立されました。多くのスピーカー・ビルダーが長年、実現にむけて挑戦してきたベース・ローディング・テクノロジー「トランスミッション・ライン」をプロフェッショナル・モニターとして唯一確立したスピーカー・ブランドです。現在では PMC のモニター・スピーカーは多くのレコーディングスタジオ、ブロードキャストのスピーカー・システムとして採用され、世界中のサウンド・エンジニアのリファレンス・モニターとなっています。